

交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー研究・活動助成

2018年度・2019年度 2年連続助成いただきました！




文責 堀内 恭子

2018年度は、「公共交通機関における視覚書障害者誘導用ブロック(以下ブロック)の敷設実態と課題—歩行訓練士の視点から—」というテーマで研究を実施しました。

日本歩行訓練士会の会員 225名にアンケート調査を実施し、6名の視覚障害当事者に現地調査をお願いしました。調査結果は、視覚的コントラスト、敷設方法、触覚的コントラストの3つの課題に分類され、視覚障害者が安心して安全に移動できるためのツールとして、ブロックが敷設されていない場面が多いことが明らかとなりました。

調査の中で周囲の床面とブロックの材質が異なることで、当事者にとってブロックがわかりやすい傾向はみられたものの、具体的にどのような床材やブロックとのコントラストが有効であるのかは明確にできませんでした。

そこで、触覚的コントラストの視点からの調査・研究を実施する必要性を感じ、2019年度も申請を行ったところ助成金をいただけることになりました。「周囲の床面と視覚障害者誘導用ブロックの触覚的コントラストに関する研究—歩行訓練士の立場から—」というテーマで研究を続けてまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

	敷設方法に問題がある			触覚的コントラストに問題がある			視覚的コントラストに問題がある		うまく敷かれている
	障害物	障害物	方向性	インターロッキング	同素材	同素材	同調	同系色	
	障害物が近接している例	標識のポールがブロックに接近	線状ブロックの誘導方向と横断方向とが一致していない例	インターロッキングブロックとブロックの区別がつきにくい例	周囲とブロックの区別がつきにくい例	周囲とブロックの区別がつきにくい例	周囲面とブロックの区別がつきにくい例	周囲面と同系色で敷設された例	周囲面が比較的平滑な例
交差点	宮崎県延岡市	山形県山形市	岡山県岡山市	新潟県新潟市	川崎市	山梨県甲府市オゾン通り	沖縄県那覇市	佐賀県小城市小城町	福岡県北九州市
									

	敷設方法に問題有り			触覚的コントラストに問題あり			視覚的コントラストに問題あり	うまく敷かれている
	障害物(柱)	障害物(非常扉)	ブロックの途切れ	ブロックの高さ	ブロックの高さ	床面がタイル	足元表示	
	内方線付き点状ブロックと支柱等の障害物が接近している例	ブロックと非常扉が接近している例	ブロックの一部が欠落している	ブロックの高さが低い	内方線付き点状ブロックが周囲の床面よりも低くなっている例	路面がタイルで凹凸がある例	視覚障害者誘導用ブロックと類似した黄色い案内表示がされている例	路面が黒く、なおかつ滑らかな例
駅ホーム	神奈川 相鉄線 海老名駅	名古屋市名城線 新瑞穂駅	福岡市地下鉄天神駅	福岡市西鉄天神駅	熊本駅	名古屋市名城線 新瑞穂駅	JR 和歌山駅	阪急 梅田駅
								

また、ブロックを敷設する場合、設計段階において、歩行訓練士などが関与していくことがとても大切で、歩行訓練士の存在や白杖の使用方法などについて広く皆様に知っていただくことが重要であると思います。

以下の場面で 2018 年度の研究成果について発表いたしました。

2019年6月10日

交通エコロジー・モビリティ財団 成果報告会にて報告

7月27日

第28回視覚障害リハビリテーション研究発表大会 口頭発表

7月7日 日本歩行訓練士会 夏季研修会にて報告

8月8日 第22回福祉のまちづくり学会 口頭発表



日歩会夏季研修会での谷会員の報告

(研究を担当した会員 島田延明、武田貴子、谷映志、中村透、古橋友則、保坂亨、堀内恭子、松下昭司)

NIPPOKAI LETTER

ニッポカイ レター
NO. 2

2019. 11

〒657-0846 大阪市鶴見区今津中 2-4-37
社会福祉法人日本ライトハウス養成部内
メールアドレス : nippokai@lighthouse.or.jp

日本歩行訓練士会 事務局

発行責任者 森 一成

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

日本歩行訓練士会（日歩会）新たな展開へ！

いつも日本歩行訓練士会（日歩会）の活動にご協力いただきありがとうございます。日本歩行訓練士会は 7 月の総会で新規約もでき新たな展開に入りました。歩行訓練士の皆さんのネットワークを深め、「歩行訓練」「歩行訓練士」の社会的認知を皆さんとともに広げていきたいと思います。

全国組織として整備のために会費を変更させていただきましたが、ほとんどの会員の皆さんが継続参加していただきました。感謝にたえません。これからも結集し、仲間を増やし力を合わせて進んでいきましょう！

日本歩行訓練士会 夏季研修会

2019 年 7 月 講習会・研究会

2019 年 7 月 6 日（土）7 日（日）に神戸市ポートアイランドにある神戸臨床研究情報センター（TRI）にて日本歩行訓練士会の講習会・研究会を開催しました。

関西圏を中心に、中国・四国、九州、そして関東からの参加もあり、全国各地から集まった歩行訓練士が熱い議論を交わしました。今回の夏季研修は両日とも会員（歩行訓練士）のみを対象とした研修で、両日参加 44 名、1 日のみ参加 9 名、延べ 97 名の参加があり、初日終了後の懇親会では終電を逃してしまった方もいたくらい大変盛り上がりしました。



開会の挨拶をする森会長



仲泊先生の講演中の会場の様子

1日目午前の講習会では、理化学研究所の仲泊聡先生から「身体障害者程度等級の一部改正について」をテーマに新旧の比較をしながら大変わかりやすく話していただきました。また、大阪府立南視覚支援学校の角田フローラ華子氏から「視覚障害者の歩行環境改善への取り組みについて」と題し、ホームドアが設置されているホームの点字ブロックとホームドアの位置関係などについて話題提供があり、グループディスカッションを行いました。



発表中の角田氏



グループディスカッションをしている会場の様

午後からの研究会では、3題の事例報告があり、フロアからも質問があり、活発な異論が繰り広げられ、その後の懇親会会場でも意見・情報交換で盛り上がりました。

2日目午前は、国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局神戸視覚障害センターの谷英志氏より、「公共交通機関における視覚障害者誘導用ブロックの敷設実態と課題—歩行訓練士の視点から—」のエコモ財団研究・活動報告、交通エコロジー・モビリティ財団の澤田大輔氏から「バリアフリー整備ガイドラインの改訂について—視覚障害者誘導用ブロックに関連して—」の講演がありました。

午後からは、「全国各地の訪問歩行訓練事業について～いつでも、どこでも歩行訓練を受けられるシステムを～」のシンポジウムが行われました。“訓練事業がない”“歩行訓練士がない”“訓練を受ける視覚障害者がいない（対象となる視覚障害者に情報が伝わっていない）”などの現状や、歩行訓練士の多くが訓練事業と他の業務と兼務であり、数少ない歩行訓練士でありながら訓練事業に専念できていない現状の危機感などについても話し合われました。



シンポジウム登壇者

左から森会長（神戸）、古橋氏（静岡）、良久氏（鹿児島）、京極氏（京都）、堀内氏（大阪）

歩行訓練士の先人たち ②

このコーナーでは日本で視覚障害の歩行訓練が始まる、広がる、発展するにあたって尽力された歩行訓練士の大先輩を紹介していきたいと思います。原則として旅立たれた方、歩行訓練から完全に引退された方とさせていただきます。今回は会員の速水洋さんから畑岸和男さんの原稿を寄稿していただきました。速水さんは大先輩（先人、レジェンド）の情報を集めており今後も寄稿していただくかもしれません。皆さんも歩行訓練士の大先輩（先人、レジェンド）の情報がありましたら、ご連絡をお願いします。

歩行養成 第1期生 ジオム社 社長 畑岸和男さん

はやみ ひろし
速水 洋

今回の歩行訓練士は畑岸和男さんです。畑岸さんといえば、皆さんもご存じの通り「ジオム社の畑岸さん」です。しかし、日本で正式に歩行訓練士の養成が始まる以前に歩行訓練を行っていたことについてはあまり知られていません。

畑岸さんは1945年に大阪で生まれ、1967年に中京大学体育学部を卒業後、すぐに日本ライトハウスに体育の指導員として入職されました。

視覚障害に関して何の知識もなかった畑岸さんですが、入職の際のオリエンテーションで歩行指導もあったそうです。オリエンテーションを担当したのはアメリカ海外盲人援護協会（AFB）より、日本ライトハウス盲人職業訓練センターにコンサルタントとして派遣されていたアルフレッド・ジャーマン氏です。その後、体育を担当しながら大槻守氏と2人で集団歩行訓練を行ったそうです。集団での歩行訓練は望んだやり方ではなかったのですが、訓練生も多く仕方がなかったそうです。

日本ライトハウスが設立されたのが1965年、日本で歩行訓練士の養成が始まったのが1970年のことですから、それより3年も前から歩行訓練をしていたこととなります。第1回目（1期生）の歩行養成には当然のように参加して、それからはマンツーマンの歩行訓練を行いました。第2期からの歩行養成には講師として加わっています。

1974年、実家（包装材料の製造、販売）を継ぐために7年間勤めた日本ライトハウスを退職しました。1975年、視覚障害リハビリテーションへの情熱はさめず、白杖等を取り扱うようになり、（有）ジオム社を設立しました。ガイドドッグ（盲導犬）、オリエンテーション&モビリティ（歩行訓練）という言葉の3つの頭文字「GOM」からジオム社の名前が生まれました。盲用具の開発、製造、販売の他、出張展示も積極的に取り組んでいます。

最後に、歩行訓練については、複数の歩行訓練士が必要（できれば男女）、初期の段階できちんと指導しないと自己流になりがちなので、しっかりとした動機付けが重要だと仰っていました。